

序

近年、I C、新素材など先端技術産業が発達するにしたがって、生産過程や廃棄物等による化学物質の環境汚染が世界的な問題となっております。

従来からある汚染物質も、大気を例にとれば光化学大気汚染や酸性雨に見られるように発生源から遠隔の地を含めた広域な問題を生じております。

このような状況のなかで、大工場地帯のみならず、各種の産業を有する川崎市においては、種々の事態に対応できるような高度な技術や知識を基礎とした調査研究が必要になってきております。さらには長期的な視野に立った質の高い研究にも力を注がなければならないと思います。そのために、当公害研究所では所員一同一層技術の研さんと知識の向上に励み、もって市民の期待に応えたいと、所員一同が念願しています。

ここに昭和61年に行った事業の概要と調査研究の結果を年報14号としてお届けいたします。ご高覧の上ご意見、ご批判を頂ければ幸いです。

昭和63年3月

川崎市公害研究所長

市 橋 正 之